Team-LUMINA

七ヶ浜プロジェクト

トライアスリートとして今、できることからはじめてみよう。

七ヶ浜、釜石、いわき……東北には、トライアスロンのレースが数多くある。今年は3月11日に起こった東日本大震災により、中止になってしまった大会も多い。チーム・ルミナでは、トライアスリートを募って、「七ヶ浜トライアスロン」を開催している宮城県七ヶ浜を応援するプロジェクトに着手。直接赴き、ボランティアとしてできることをできる限り行い、再びトライアスロン大会が開催できるようになる日まで、微力ながら復興のお手伝いをさせていただこうと活動を開始した。今回は、5月3日～5日に行った第1回目のボランティアの様子をチームメンバーにレポートしてもらった。

七ヶ浜海岸。津波の影響で砂浜はほとんどなくなり、瓦礫やタイヤ、コンテナなどが流れ着いていた

左／お手伝いをしたお宅のご主人と。息子さんが七ヶ浜トライアスロンのスイムボランティアをされている

右下／ボランティアセンターで仕事が割り振られ、現地へ向かう。土砂を掻き出す作業を行う

左下／リフォームしたばかりの家は残ったが、そのまわりにほとんどなにもなくなっているのが分かる

トライアスリート9人で5月2日の深夜に東京を出発し、7時間かけて七ヶ浜に到着しました。

事前に、被災地にボランティアが殺到していると報道されていたとおり、次々と車、バスなどが乗り入れられボランティアの受け付け場所には長蛇の列ができていました。ざっと300人近くは集まっていたのではないでしょうか。この大人数に仕事をどのように振り分けるのかと不安に思っていると、「フリーマーケットに12名」「○○家のガレキ撤去に10名」などと仕事内容と必要人数が発表され、自分たちがやりたい仕事に手を挙げていく、という方法がとられていました。私たちは車や作業道具があることをアピールして仕事をもらいました。

午前中は、個人宅の津波で運ばれてきた砂利・ヘドロを庭から掻き出す作業を行いました。その家からは海は見えません。それなのにこんなところまで津波が来るなんて……。東京では感じることができない、現場の様子にただ驚くばかりでした。

午後は別のお宅のガレキの撤去。こちらは2階の屋根まで浸かったにも関わらず、家は流されず残っていました。水に浸かって軟らかくなった壁材をはがして、断熱材を抜き取り、ガレキを運び出します。実はこのお宅は、まだリフォームしてから4カ月しか経っていなかったため、なんとか形を残し、再度リフォームする予定だそうです。壁をはがす人、ガレキを集める人、運ぶ人と自然にみんな役割分担ができ、チームワーク良く動けました。

トライアスロンができる喜びを感じながら

そこで運命的な出会いがありました。休憩中に自分たちがトライアスロン仲間だということを話すとなんと一緒に作業をしていた息子さんは七ヶ浜トライアスロン大会のときにスイムサポートとしてシーカヤックで先導してくれているというではないですか！　いつも大会のときに自分たちをサポートしてくれている方のお手伝いができたことを非常にうれしく思いました。

2日目も引き続き同じお宅で作業。全部終了すると歩いて数分の浜辺に案内してくれました。浜辺の近くに何十軒もあったという家は土台だけ残して流されてしまったと聞き、改めて津波の脅威を思い知らされました。

ただ、今回印象的だったのはどの家族も皆さん笑顔だったこと。震災から2カ月という時間がそうさせてくれたのでしょうか。復興に向けて前向きな皆さんにこちらが勇気づけられました。また七ヶ浜で大会が開催される日が訪れるまで定期的に足を運んで一緒に頑張っていきたいという気持ちでいっぱいになりました。大きなことはできませんが、小さなことからひとつずつ地域の方々のお手伝いをしていきたいと思っています。

文＝高橋千晶（チーム・ルミナメンバー）

※これからもボランティアの様子は誌面やwebサイトで報告していきます。

Team-LUMINA

七ヶ浜プロジェクト

トライアスリートとして
今、できることからはじめてみよう。

チーム・ルミナでは、トライアスリートを募って、「七ヶ浜トライアスロン」を開催している宮城県七ヶ浜を応援するプロジェクトに着手。再びトライアスロン大会が開催できるようになる日まで、微力ながら復興のお手伝いをさせていただこうと活動を開始した。5月に続き第2回目のボランティア活動を6月24日～26日にかけて行った。

被害の大きかった吉田浜にて浜辺の清掃を行った。海から流れてきた瓦礫や廃材を分別し、潮水によって腐敗した樹木はその場で燃やした

上／スイム会場の湊浜。近くには水力発電所があり、地震の影響で炎上した。大会開催までには時間がかかりそうだが、再開されたら必ず出場しようとメンバーで話しながら
左上／6月26日日曜日は、七ヶ浜町で亡くなられた方々の慰霊祭が行われ参列。103人の犠牲者を追悼、遺族代表のご挨拶には思わず涙する人も多かった
左／LUMINAのホームページから雑誌を購入する際、「義援金付き」が選べる。その読者の皆さんからの義援金を渡邊善夫七ヶ浜町長へ手渡した

初日は、80人近いボランティアの皆さんと浜辺の清掃へ。破砕した家屋、漁船、漁具、コンテナ、流木、生活用品を仕分けしつつ掻き集めていきました。初めは膨大な瓦礫の多さに果てしなく感じられた作業も、次第と面識のないボランティア同士が共同作業をし始め、その輪が広がっていき、浜が綺麗になっていく様は感動すら覚えます。

15時に1日目の清掃作業を終了し、七ヶ浜町役場へ。LUMINAの読者からお預かりした義援金（一部）を編集部より渡邊善夫町長にお渡ししました。町長をはじめとする地元の皆さんもトライアスロンの大会を再開できる日を心待ちにしておられて、一層ボランティアのやり甲斐を感じました。

翌日も引き続き浜辺清掃を実施。昨日以上の100人近い人数で七ヶ浜のボランティア活動を行うことができました。この日は清掃作業終了後に、七ヶ浜トライアスロンのスタート地点に向かいました。流されたコンテナが浜辺に突き刺さり、周辺施設も津波に破壊されたままでした。再開までの大変な道のりを嫌でも感じさせられますが、復興に向けて懸命な地元の方々にお会いしていると、それ以上に大会再開催への期待感が膨らみます。

最終日は帰路につく前に合同慰霊祭に参列させていただきました。犠牲者を悼んで冥福を祈りました。被災地の悲劇は想像を絶するもので、ともすると素人の自分に何ができるのかと悲観してしまいそうになります。しかし、今回七ヶ浜で偶然お会いしたトライアスリートや、同時期に東北各被災地へ活動に行かれていた全国のトライアスリートの存在が、「行ってできることをやるしかない！」と勇気を与えてくれました。これからも、大会を再開催するという想いを地元の方々と共有させていただきながら、活動を継続していければと思います。

文＝野村敬（チーム・ルミナメンバー）
※今後もボランティア活動の様子など誌面で報告していきます。

Another Project
我孫子市にも義援金を

ルミナでは七ヶ浜とあわせ手賀沼トライアスロンの開催地、我孫子市（千葉県）の復興支援もお手伝いしていくことになった。先の震災では都市部の液状化も深刻な被害をもたらしたが、我孫子市もその被害が大きかった都市のひとつ。

「同じ千葉県内でも浦安の新興住宅地での液状化が報道されることが多いのですが、我孫子市も昭和28年に沼沢地を埋め立てた布佐地区などで116軒（その後、118軒に修正）の全壊家屋を出した被災地。多くの方が住む家を失いました」。今回、義援金を直接受け取ってくださった星野順一郎市長（＝写真左）は、市として被災者への最大限の支援を行っていくとしながらも、それだけでは限界があるとも語る。できることはわずかかもしれないが、ルミナでは8月21日に開催される手賀沼トライアスロンなどを通じて、我孫子の復興のお手伝いを継続していく。

Team-LUMINA

七ヶ浜プロジェクト

トライアスリートとして 今、できることからはじめてみよう。

チーム・ルミナでは、トライアスリートを募って、「七ヶ浜トライアスロン」を開催している宮城県七ヶ浜を応援するプロジェクトに着手。再びトライアスロン大会が開催できるようになる日まで、微力ながら復興のお手伝いをさせていただこうと活動を開始し、5月6月に現地でボランティアを行った。今回は、七ヶ浜の状況と先日義捐金をお渡しした我孫子市で行われた手賀沼トライアスロンについてご報告しよう。

上／スイム会場を視察するカサド会長（右端）
左上／震災後、ルミナメンバーも訪れたことがあるスタート場所の湊浜
左下／町役場を表敬訪問。3月11日の様子を話す渡邊町長（左）

国際トライアスロン連合（ITU）のカサド会長が七ヶ浜を視察

9月19日に行われたトライアスロンWCS横浜大会に向けて来日した、マリソル・カサド会長が、9月14日に七ヶ浜町を訪れた。

チーム・ルミナのメンバーもボランティア後に訪れたことがある七ヶ浜大会のスイム会場、湊浜を視察した後、バイクコースを通り、被害が大きかった菖蒲田浜にも訪れた。その後、渡邊善夫七ヶ浜町長を表敬訪問した。

宮城県トライアスロン協会からは、大関辰郎理事長らが迎え、JTU専務理事らとともに大会の再開に向けて七ヶ浜町とITUに協力を求めた。カサド会長は「日本の国民は勤勉で我慢強いので、復興も早いと信じている」と力強く話した。

チーム・ルミナでは今後もトライアスリートを募り、七ヶ浜でのボランティアを続ける予定。

写真・協力＝宮城県トライアスロン協会

トライアスリートが元気を届ける

手賀沼トライアスロン（千葉県我孫子市・柏市）

ルミナでは、七ヶ浜とあわせて、手賀沼トライアスロンの開催地、我孫子市（千葉県）の復興支援もお手伝いしている。

8月21日に開催された、第6回手賀沼トライアスロンは、雨が降るコンディションながら、362人が参戦した。スイムは数年前まで、「水質ワースト1」だった手賀沼。現在は、遊泳基準をクリアし、トライアスロン大会が開催できるまでになった。バイク・ランは整備されたサイクリングコースを走るフラットなコース。リレーの部も併催され、49チームが参加。

チーム・ルミナからも個人・リレー合わせて10人ほどが参加した。東日本大震災で被害に遭った地域、または風評被害を受けている地域でスポーツイベントを開催するには今まで以上に苦労があったはず。そんな大会に参加し、その場で思いっきりトライアスロンを楽しむことで、地域の皆さんに元気を届けたい、という思いで参加した人も多かっただろう。トライアスリートだからこそ、できることを今後も続けていきたい。

スイムはフローティングのウエーブスタート。手賀沼を泳ぐ

チーム・ルミナ、そろいのウエアで参戦

七ヶ浜でのボランティアを綴った『ヒトのチカラ』

「この本をお読みいただいた皆さんは、僕と、宮城県七ヶ浜町災害ボランティアセンターで心をこめて働いた人たちの仲間です。一緒にこの東日本大震災という私たち日本人に課された大きな試練を乗り越える過程に関与した、語り部になってくれることを願っています」（本文より一部抜粋）と言うのは著者の小田原きよしさん。1964年大分県宇佐市生まれ、現在会社役員。トライアスロンを趣味にしている小田原さんは震災後、すぐに七ヶ浜にボランティアに入り、未経験ながら現地で活動を行った。その様子を記録した著書。七ヶ浜の様子が細かく描かれている。

『ヒトのチカラ』
著者＝小田原きよし
発行＝
株式会社マーブルトロン
￥1,365

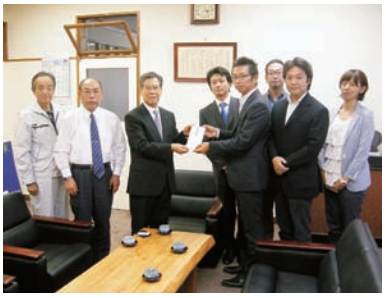
Team-LUMINA

七ヶ浜プロジェクト

トライアスリートとして 今、できることからはじめてみよう。

チーム・ルミナでは、トライアスリートを募って、「七ヶ浜トライアスロン」を開催していた宮城県七ヶ浜町を応援するプロジェクトに着手。再びトライアスロン大会が開催できるようになる日まで、微力ながら復興のお手伝いをさせていただこうと活動を開始し、5月6月と現地でボランティアを行いました。3回目となる10月の活動内容を報告します。

以前は問題なかった作業先での写真撮影が禁止されていた。被害に遭った方の気持ちを考えるとそれも当然。写真は菖蒲田浜近くの風景



左上から時計回りに／前回紹介した小田原きよしさん。現在もボランティア活動を積極的におこなっている／作業を行うための道具はほぼそろっている。長靴の貸し出しもあるので、ひとりでの参加も安心／市役所には、七ヶ浜町を応援するメッセージが日本のみならず、世界各国から届いている／全国から集まるボランティアのために、野菜や果物を差し入れしてくれる方もいて、うれしいお土産／前回同様、今回も読者の皆さんから託された義援金の一部を渡邊義夫七ヶ浜町長にお渡しした

ボランティアを行うには、まず事前にボランティアセンターに申請し、何名か、車は動かせるかなどを確認される（七ヶ浜の場合）。

現場に着くと、9時からボランティアセンターにて、マッチングが行われ、ボランティアの内容が決まる。前回は浜の清掃を100人近い大人数で行った。3回目となる今回は、個人宅の清掃。他26人の団体と私たち4人で、花淵浜近くのお宅へお邪魔した。それぞれのボランティア先には、リーダーとサブリーダーが付き、指示を出してくれる（リーダーも県外からのボランティア）。浜から150〜200mほど離れているそのお宅は、すでに家屋はなく基礎だけの状態になっていた。作業内容は、基礎部分に残っているガラスや大きな石を撤去し、砂を払いきれいにすること。

家の主が戻ってきたときに、きれいになっているのを見て少しは元気になってもらいたいという気持ちで午前、午後と掃除を行った。

七ヶ浜町の中でもきれいに片付いているところと、5月に訪れたときと全く変わっていないところと、その差は激しい。海水浴ができるほどに片付いている浜もあれば、七ヶ浜トライアスロンが行われていた湊浜はようやくコンテナが撤去されたというし、田んぼや畑の中には、さかさまになった車や瓦礫が時間が止まったままで残っているところもある。

渡邊七ヶ浜町長によると、地域ごとに町、県、国と管轄が違うために思うように、進まないところもあるそう。湊浜の場合は県の管轄のため町では積極的に手を付けることができないそうだ。

レース再開まではまだまだ長い道のり、というのは否めないが、今回新しいトライアスロン事務局長の中津川伸二教育長に会うことができた。「県とも協力して、大会復活に向けて動き出そうとしています。ただ今まで通り、ボランティア含めてすべて七ヶ浜町で賄うのは難しい。ただレースをして帰る、という気持ちでは、続けていくのは難しくなります。ぜひ、一緒に大会を盛り上げる、創り上げるという気持ちで、協力しながら大会復活に向けた活動ができればと思っています」と話してくれた。すべてのレースに言えることだが、私たちトライアスリートも一緒になって大会を盛り上げていくことが重要。決してお客ではなく、自分も大会をつくるメンバーの一員なんだという気持ちがより一層大切になってくるとあらためて実感する、ボランティア活動となった。

Team-LUMINA

七ヶ浜プロジェクト

トライアスリートとして
今、できることからはじめてみよう。

チーム・ルミナでは、トライアスリートを募って、「七ヶ浜トライアスロン」を開催していた宮城県七ヶ浜町を応援するプロジェクトに着手。再びトライアスロン大会が開催できるようになる日まで、微力ながら復興のお手伝いをさせていただこうと、5月にボランティアを開始した。

2011年6月に訪れた湊浜。まだまだ手入れが必要な状態だったが、現在はどうだろうか。2月にも現地に行く予定なので現状を見てこよう

トランジションエリアへと続く道はアスファルトがめくれあがっていた。これも修繕するには時間がかかりそうだ

みやぎ国際トライアスロン仙台ベイ七ヶ浜大会7月1日に開催予定！

うれしいニュースが飛び込んできた。昨年の東日本大震災で被災し、中止を余儀なくされた「みやぎ国際トライアスロン仙台ベイ七ヶ浜大会」が7月1日に開催予定だという。

6月にボランティアに行った際、スイム会場だった湊浜はまだ荒れた状態だった。トランジションエリアとして使われていた駐車場のアスファルトはめくれあがっていた。そんな情景を見たら、「レースはまだ先かな」と考えずにはいられなかった。

しかし、昨年末お邪魔したときには、大会事務局が新たに立ち上がり、再開へ向けての準備が進んでいるようでもあった。

今のところの予定ではスイム会場は湊浜の外洋を泳ぐ以前と同じコースのようだ。中津川伸二大会事務局長は以前、「選手の皆さんも一緒に大会を作りあげるつもりで。お客さんとして来られても大会は成り立たない」と切実な思いを話してくれていた。無事に大会が開催され、多くのトライアスリートが訪れるように、チーム・ルミナでは引き続き七ヶ浜町のお手伝いをしていく。

届け！トライアスリートの想い。

昨年、宮古島大会をはじめ、さまざまなトライアスロン会場で見かけた写真のTシャツやポロシャツ。これは、東日本大震災の復興支援でつくられたチャリティーTシャツ（ポロシャツ）だ。1枚2500円。

復興支援というだけではなく、デザインがかっこよくまた、カラーも豊富で多くのトライアスリートに人気だった。

そこで集まった金額の一部を七ヶ浜町へ義援金として渡すことになった。

デザインを手がけたRTKの五百蔵偉人さんをはじめ、スタイルバイクの保田直哉さん、メイストームの大西祥司さんが直接渡邊町長に手渡す予定だ。また、他にも釜石はまゆりトライアスロンの開催地、釜石市にも届ける予定。

日本全国のトライアスリートたちの想いが形になって、現地へ届く。

読者の皆様からの義援金のゆくへ

2011年読者の皆さまからお預かりした大切なお金です。

●Web（定期購読時、雑誌購入時に義援金付きを選んでくださった方からの義援金）　412,000円
●雑誌口座振り込み（ファックスで雑誌をお申込みくださった方からの義援）　1,700円

これらの義援金は七ヶ浜町の渡邊義夫町長に直接手渡しました。引き続き、皆様の気持ちと義援金を現地へと届けていきます。

Team-LUMINA

七ヶ浜プロジェクト

トライアスリートとして
今、できることからはじめてみよう。

チーム・ルミナでは、「七ヶ浜トライアスロン」を開催していた宮城県七ヶ浜町を応援するプロジェクトに着手。再びトライアスロン大会が開催できるようになる日まで、微力ながら復興のお手伝いをさせていただこうと、昨年5月よりボランティア活動に取り組んでいる。

Satoshi TAKASAKI/JTU

写真は2010年に開催された大会のときのもの。町や大会実行委員会では、今年7月の大会開催に向けて、スイム会場である湊浜の安全確認などに取り組む

Satoshi TAKASAKI/JTU

同じく2010年大会のバイクパート。湊浜に連なる比較的海抜の低い沿岸地域は津波の被害が大きく、本年度開催にあたっては大幅なコース変更を余儀なくされる

大会開催に向け尽力されている七ヶ浜町教育委員会の菅井厚さん（右）と、同町震災復興推進室の荻野繁樹さん（左）。荻野さんは大会のスイムコース先導（シーカヤック）も担当していた

トライアスロン大会が七ヶ浜に元気を贈る復興イベントとなるために

チーム・ルミナの七ヶ浜プロジェクト、今回（2月）は現地でのボランティア活動とあわせて同町の渡邊義夫町長や新大会事務局長の中津川伸二教育長らを訪ね、7月1日開催に向けて動き出した「みやぎ国際トライアスロン仙台ベイ七ヶ浜大会」などについて、情報交換をしてきた。これまで大会のコースでもあった、海沿いの地域は津波の被害が大きく、スイム会場である湊浜の安全確認なども含め、大会再開までには課題も多いという。それでも大会の本年度再開を決意した渡邊町長は、「トライアスロン大会開催を、復興に向けて町に活気を取り戻すきっかけにしたい」と話す。

七ヶ浜に限ったことではないが、あれだけ甚大な被害を及ぼした震災から、本当の意味で立ち直るまでには、まだまだ道のりは長い。それを乗り切るためには、被災地の市民が元気を取り戻し、維持していくことが重要。トライアスロンのもつ力は、きっとその一助となるはずだ。ルミナでは7月の大会をサポートするとともに、さらに多くのトライアスリートがボランティアとして、そこに参加できるような、具体策を打ち出していきたい。

復興支援Tプロジェクト 義援金を七ヶ浜、釜石へ。

前号でも紹介したトライアスリート有志による震災復興支援チャリティーTシャツ（ポロシャツ）プロジェクト。その発起人である五百蔵偉人さん（RTK）、大西祥司さん（メイストーム）、保田直哉さん（スタイルバイク）が、全国のトライアスロン大会会場などでのTシャツ&ポロシャツ（1枚2500円）販売を通じて集まった義援金を、七ヶ浜町と岩手県釜石市へ、それぞれ直接手渡しした。

金額は各100万円。実は今回、チーム・ルミナとともに七ヶ浜町へ向かったのだが、雪の影響で同町には立ち寄れず、そのまま釜石市へ。七ヶ浜への義援金は、弊誌発行人が代理で渡邊町長に手渡しさせていただいた。

（上）釜石市へ、直接義援金を手渡しするプロジェクト発起人の皆さん（写真右から3人）（下）釜石はまゆりトライアスロンのスイム会場、根浜海岸のレストハウス。震災の爪痕はまだまだ生々しい

七ヶ浜復興サポートツアー&トライアスロン練習会 5月初旬、開催予定

七ヶ浜町でボランティア活動に参加させていただき、現地周辺エリアで宿泊。翌日は現地でトライアスロン練習会に参加——。そんなツアーを開催します。仲間や家族で参加して、七ヶ浜の皆さんとも交流を深められるプランを検討中。最新情報は、ルミナ公式ポータルサイトで。

Triathlon LUMINA.com > http://triathlon-lumina.com

Team-LUMINA

七ヶ浜プロジェクト

トライアスリートとして
今、できることからはじめてみよう。

チーム・ルミナでは、「七ヶ浜トライアスロン」を開催していた宮城県七ヶ浜町を応援するプロジェクトに着手。再びトライアスロン大会が開催できるようになる日まで、微力ながら震災復興のお手伝いをさせていただこうと、昨年5月よりボランティア活動に取り組んでいる。

レース参加以外にもできることはある

7月1日の開催に向けて動き出した「みやぎ国際トライアスロン仙台ベイ七ヶ浜大会」だが、被害の大きかった海沿いエリアでのコースの確保や、運営スタッフの確保など課題も多い。そんな中、チーム・ルミナでは、一般トライアスリートが「運営ボランティア」として大会に参加し、復興イベントとしての「七ヶ浜トライアスロン」を応援できないかと考えている。

七ヶ浜町の皆さんに、そんな相談をしてみたところ、この連載にも度々ご登場いただいている同町震災復興推進室の荻野繁樹さんが、ある方を紹介してくれた。七ヶ浜ボランティアセンターの隣にある「ボランティアきずな館」に拠点を置くNPO法人「レスキューストックヤード」の事務局スタッフ石井良規さんだ。

レスキューストックヤードでは、最近、仮設住宅に住む被災者の皆さんの心のケアにも重点を置いている。ほかの被災地同様、七ヶ浜でも、仮設住宅に引きこもりがちになる方もでてきているのだという。

「ちょっとした手芸教室のようなものを開いたりもしているのですが、そういう所にも出てこられない方もいます。そこで仮設住宅のすぐそばにできた仮設の商店街『七の市商店街』で、お祭りのようなイベントを行ったりして、少しでも外に出て元気を取り戻せるような機会をつくっています」

七ヶ浜でトライアスロン大会が開催されるなら、ぜひ協力したいというボランティアも多いのではないか、と話す石井さん。大会の前後に復興祭りのような地域住民や仮設住宅に住む方も楽しめるイベントがあれば、彼らとしても協力を惜しまないとも。

もちろん、無事レースが開催されることになれば、まずはそこに出場するのが、ひとつの復興支援の方法だが、それ以外でも我々トライアスリートにできることはまだまだありそうだ。

ボランティアセンターそばにある七の市商店街。ラーメン屋さんや花屋さんなどが軒を連ねる。トライアスロン大会の受付会場だった体育館の目の前にある

同じ町内とはいえ住む環境もコミュニティ（隣近所）も一変して、強いストレスを感じる仮設住宅の住民も多い。この商店街は、新しいコミュニケーションの場として同町がつくったもの

レスキューストックヤードの石井良規さん。七ヶ浜ボランティアセンターの隣にある施設で寝泊まりし、震災直後から現在に至るまで、災害復興の一翼を担ってきた

トライアスリート・鍛鉄工芸家
恐竜の親子と被災地をゆく。

ルミナの巻末連載（P128）でもおなじみの鍛鉄工芸家・トライアスリートの西田光男さんが、東北の被災地で、自らの作品を巡回展示している。

震災直後、何か自分たちにできることはないか――考えた末に思い至った、西田さんにしかできない復興支援だ。

「昨年4月から恐竜の制作を始め、3頭が完成するまでに10カ月かかりました。当初、巡回展示は陸前高田市の3カ所位で4月中旬までと思っていましたが、子どもたちの楽しそうな笑顔を見て、もっと多くの場所で行う必要があると感じました。『子どもの笑顔は大人の元気の源』、子どもに笑顔があると大人も笑顔になるのですね」（西田さん）

すでに被災地12カ所での展示が決まっており、1～2週間ごとに場所を変えながら巡回展示をして行く予定。ぜひ、七ヶ浜トライアスロンの会場などでも展示してもらいたい。

（右）お父さん恐竜は「TARO」体長600㎝、体重180kg。お母さんは「HANAKO」体長505㎝、体重155kg。息子の「ICHIRO」は体長250㎝、体重65kg。西田さんがトラックで自ら運ぶ（左）展示は3月に陸前高田市の仮設住宅・オートキャンプ場「モビリア」から始めた。当然、子どもたちに大人気!

©Satoshi TAKASAKI/JTU

2010年7月の七ヶ浜大会の様子。エリートレースも行われ、国内外から選手が参加していた。募集については決まり次第、LUMINA.comのレースガイドにて告知予定

スイム会場を予定している浜にまた多くの観客、応援の声が戻ってくるように、笑顔がたくさんあふれるように

Team-LUMINA

七ヶ浜プロジェクト

トライアスリートとして 今、できることからはじめてみよう。

チーム・ルミナでは、「七ヶ浜トライアスロン」を開催していた宮城県七ヶ浜町を応援するプロジェクトに着手。再びトライアスロン大会が開催できるようになる日まで、微力ながら震災復興のお手伝いをさせていただこうと、昨年5月よりボランティア活動に取り組んでいる。

「七ヶ浜大会復興祭」開催予定

7月1日に開催される「みやぎ国際トライアスロン仙台ベイ七ヶ浜大会」の復活を祝って、大会前日の6月30日（土）に「復活祭」を現在計画している。

「復活祭」のコンセプトは、地元の方にも積極的に参加してもらい、楽しんでもらうこと。子どもからお年寄りまで、さまざまな年齢層の方に楽しんでもらえる地元参加型のイベントを予定している。

具体的には大会受付会場に「屋台村」が出現。トライアスリートのボランティアによる屋台に、誰もが気軽に集まり、楽しめるお祭りのように、やきそば、お好み焼き、豚汁など軽食を用意する。また、たこ焼きやドーナツなど、有名人気店の出店もあり。

さらには復興の想いを込めて地元の味や物を広く多くの人に知ってもらえるような物産展も開催する。その他、地元の皆さん、レースに参加する選手に楽しんでもらい、さらに活性化につながるような催しも企画中だ。

レース当日は、地元の方へのトライアスロン観戦ツアーを予定している。ここでもトライアスリートのボランティアたちが快適な観戦をお手伝い（テント、椅子の設置や飲食の準備など）する。その他レースの運営ボランティアとしても活動してもらう。

今回はこの復興祭イベントのお手伝いをしていただけるトライアスリートを募集。ルミナ編集部も全員参加予定なので、一緒に七ヶ浜町、また大会を盛り上げよう。

復興祭・大会を盛り上げるボランティアを募集中！

今回のボランティアは7月1日のレースに出場されない方限定です。準備・撤収もすべて含めたボランティア活動になります。主な内容は決まり次第、LUMINA.com「七ヶ浜プロジェクト」ページで発表していきます。

また、「こんなことをやってみたい」「こんなことができます」などのご意見もお待ちしております。

先着30人限定です。ボランティアが決定した方には個別に詳細をお知らせいたします。「七ヶ浜プロジェクト」ページより申し込みできます。

写真は大会でブース出展した際のルミナチーム。七ヶ浜でもそろいのTシャツ（写真とは別）を着て、一緒に楽しく真剣に活動しよう

日程予定

■6月29日（金）夜東京発
■6月30日（土）午前中七ヶ浜着
・「復興祭」運営ボランティア
・宮城県松島泊
■7月1日（日）
・七ヶ浜大会運営ボランティア
・帰路へ

東京発着でバスに乗り合いの予定です。
マイカー、公共機関を使って現地合流でもOK。
※尚、費用はすべて自己負担です。
※内容は変更されることがあります。

★応募方法・詳細はLUMINA.comの「七ヶ浜プロジェクト」ページへ
http://triathlon-lumina.com/

問い合わせ

①出店者募集
※復活祭にご賛同いただき、出店していただける企業、トライアスロン関係者の方がいらっしゃいましたら、下記までご連絡ください。興味がある、詳細を知りたいという問い合わせでも構いません。メールを送る際、件名を「七ヶ浜プロジェクト・出店について」としてください。

②ボランティアについて
活動内容についての問い合わせの場合は、件名を「七ヶ浜プロジェクト・ボランティアについて」としてください。メールでは質問のみで申し込みできませんので、ご注意ください。

E-mail: triathlon@seaos.co.jp

Team-LUMINA

七ヶ浜プロジェクト

トライアスリートとして 今、できることからはじめてみよう。

チーム・ルミナでは、「七ヶ浜トライアスロン」を開催している宮城県七ヶ浜町を応援するプロジェクトに着手。再びトライアスロン大会が開催できるようになる日まで、微力ながら震災復興のお手伝いをさせていただこうと、昨年5月よりボランティア活動に取り組んでいる。

©Satoshi TAKASAKI/JTU

（上）地元の人や多くのトライアスリートが待ち望んだ大会の復活。レースの熱気に町全体が盛り上がる日まで1カ月を切った。写真は2010年7月の大会の模様
（下）かつて、大会のスイムパートで使用していた湊浜も震災で甚大な被害を受けたが、7月1日、2年ぶりにこの地に活気溢れる大会が戻ってくる

イベント盛りだくさんの「復興祭」が6月30日開催決定

七ヶ浜プロジェクトを連載してきた本誌が主催する「復興祭」を、みやぎ国際トライアスロン仙台ベイ七ヶ浜大会の前日となる、6月30日に開催する。

復興祭には、本企画で募ったトライアスリート30人がボランティアとして参加。地元の皆さんと交流し、一緒にお祭りを盛り上げて楽しんでいただくことが目的だ。

当日は、大会受付会場となる七ヶ浜生涯学習センターの近隣に、屋台村が立ち並び、ルミナブースではボランティアが作る焼きそばやお好み焼きなどのB級グルメが振る舞われる。また、人気の飲食店なども多数出店予定で、地域復興・活性化を目的とした地場の名産などを販売する物産展も行われる。

ほかにも、ゲストを招いてのステージイベントと併せて、小学生を対象としたキッズアクアスロンレースを計画中。さらに、復興祭のメインスポンサーの日立化成工業は、未就学児や小学生向けに実験を通じて理科や科学の楽しさを知ってもらう、「科学実験教室」を開催。食事やスポーツイベントだけでなく、子どもたちに学びの場も提供される。

ボランティアは、復興祭での設営（テントやイスの設置、屋台村での手伝い）をはじめ、キッズアクアスロン運営の手伝いをする。また、大会当日には現在計画中の観戦ツアーの補助や運営ボランティアとして活動してもらう。

今回「復興祭」を開催する運びとなったが、本イベントをはじまりとして、今後も編集部は誌面やボランティア活動を通じて、七ヶ浜復興のお手伝いを続けていく。

日立化成工業presents

親子で一緒に 世界一受けたい!? 科学実験教室を実施

全国の学校・幼稚園などで、実験を通じて科学の楽しさを伝えてきた科学実験教室が七ヶ浜町にやってくる。当日は大人も目からウロコなユニークな実験を予定している。親子で参加できるので、近県からの来場も大歓迎。

安全に、気軽に科学の実験が楽しめる教室は子どもにとって貴重な思い出になる

日程予定

■6月29日（金）　22:00　東京発
■6月30日（土）　朝　七ヶ浜着
10:00〜17:00　「復興祭」運営ボランティア
夜　宮城県松島泊
■7月1日（日）　7:00〜　七ヶ浜大会運営ボランティア
16:00　七ヶ浜発
22:30　東京着
※時間は前後する場合があります

復興祭の先着30人のボランティアは、おかげさまで定員に達しました。ご応募ありがとうございました。

復興祭への問い合わせ

出店者募集中

復興祭にご賛同いただき、出店していただける企業、トライアスロン関係者の方がいらっしゃいましたら、下記までご連絡ください。興味がある、詳細を知りたいという問い合わせでも構いません。メールを送る際、件名を「七ヶ浜プロジェクト・出店について」としてください。

E-mail:triathlon@seaos.co.jp

★詳細はLUMINA.comの「七ヶ浜プロジェクト」ページへ
http://triathlon-lumina.com/

協賛企業

Hitachi Chemical
喜多方ラーメン
Krispy Kreme
COLD STONE CREAMERY
AuntieAnne's

キッズアクアスロン小学生1-2年の部女子で優勝した星あやめちゃん。スイム、ランともに最後まで元気いっぱいの走りを見せてくれた

七ヶ浜町の子どもたちで結成されたグループ「NaNa5931」は、復興の祈りを込めたダンスを披露。素晴らしいステージだった

Team-LUMINA 七ヶ浜プロジェクト

トライアスロン復興祭

昨年5月から七ヶ浜町のボランティアを続けているチーム・ルミナは大会前日に「復興祭」を開催。地元の皆さんとお祭りを楽しんだ。

文＝鈴木沙織（本誌編集部）
写真＝小野寺理恵、齋藤千恵、LUMINA編集部　ロゴ＝西村アメリカ君

協賛企業 Hitachi Chemical Working On Wonders　Krispy Kreme DOUGHNUTS　Auntie Anne's　喜多方ラーメン　COLD STONE CREAMERY

皆がひとつになって盛り上がった「トライアスロン復興祭」

チーム・ルミナでは昨年5月より「七ヶ浜プロジェクト」を立ち上げ、現地でのボランティア活動や義援金を通して支援を続けてきた。地元住民や仮設住宅に住む方たちを元気付け、お互い楽しめるようなイベントを作ろうと、30人のトライアスリートのボランティアたちと一緒に、七ヶ浜大会の前日、6月30日（土）に「トライアスロン復興祭」を開催した。

当日会場となった七ヶ浜町生涯学習センターの正面玄関前のスペースには屋台村が登場。LUMINAブースをはじめ、有名外食チェーン、地元の屋台や物産店が立ちならび、夏祭りのようににぎわった。

メインステージでは、トライアスリートでシンガーの古代眞琴さんをゲストMCに迎えてのイベントが行われた。地元バンドの「Mypiano」、ダンスパフォーマンスを披露してくれた「NaNa5931」のステージや、ねんりんピック宮城・仙台2012の「むすび丸」も応援に駆けつけてくれた。午後のメインイベント「キッズアクアスロン大会」では、多くの地元の子どもたちが参加した。ゴールの屋台村を目指して一生懸命走る姿に、復興祭に訪れた人たちはエールを送り、この日一番の盛り上がりを見せた。

震災以降、七ヶ浜町ではここまで大々的に行われたお祭りがなかったそうだ。被災した浜の近くに住む方は、「屋台が並ぶお祭りはとても懐かしい。私も皆さんも、きっと良い思い出になりますよ」と笑って話してくれた。

地元の皆さんと触れ合い、このお祭りを一緒に盛り上げ、楽しむことができたことが何よりもうれしい。今後も復興に向けて、わたしたちトライアスリートにできることを考えながら支援を続けていく。

（上）復興祭ロゴをプリントした青いTシャツを着て、集まったトライアスリートボランティアの皆さんとルミナメンバーで一緒に記念撮影（左下）クリスピークリームドーナツのブースの様子。屋台チームのボランティアの皆さんは炎天下の中、笑顔を絶やさず接客した（右下）日立化成ブースの「子ども科学実験教室」ではさまざまな実験が行われた。子どもと一緒に実験するボランティアとして参加した社員の皆さんも楽しそうだ

直前まで元気にはしゃいでいた子どもたちだったが、レース本番を迎えて表情も引き締まり、真剣そのもの

最近あまり見なくなったうすときねがルミナブースの前に。餅つき大会が行われ、子どもたちが交代でついたお餅は美味しいと評判だった

一緒に笑いあおう。

❶スタート直後は小学生ながらも激しいバトルに。トランジションではTシャツがうまく着られずもたついてしまい、あわてる子もちらほら　❷アクアスロン初挑戦の子どもたちにとって自分の腕にナンバリングされることは初めてのこと。書かれる数字をじっと見つめる子も　❸ランでサッカー場を2周回した3、4年生たち。レース後に感想を聞くと皆、口をそろえてランが大変だったと言う。少しキツかった?　❹入賞した子どもたちには賞状とルミナ特製大会タンブラーほか、ルミナTシャツやタオルなどをプレゼント。よく頑張りました!

❺ポテトと唐揚げ詰め放題の屋台では容器の限界まで詰め込んでいる子どもたちの姿が。唐揚げを上手に詰めた男の子はとても満足そう　❻七ヶ浜の海でとれる海産物をペースト状にしたパテを挟んだご当地バーガー「復興バーガー七ヶ浜バージョン」ヘルシーな味わい　❼地元の漬け物屋さんの屋台では冷えたお漬物が。強い日差しが照りつける日中、冷たいきゅうりをほおばる人たちをたくさん見かけた

❽ステージイベント最後のじゃんけん大会では、豪華賞品の数々に、子どもたちよりも大人たちのほうが目を輝かせていたような?　❾仙台を活動拠点にしている地元バンド「MyPiano」は、震災後に避難所をまわって、歌と演奏で皆を元気付ける活動を行っていたそうだ　❿ラジオDJでおなじみのやまだひさしさんも復興祭に駆けつけてくれた。「たこ焼きカー」で被災地を回りながら支援活動を続けている　⓫ゲストMCとして一緒に復興祭を盛り上げてくれた古代眞琴さんのステージ。「Try Your Best」は私たちへの応援歌。一度聴いたら忘れられない　⓬ねんりんピック宮城・仙台2012の大会マスコット「むすび丸」がステージに登場すると、すぐ子どもたちに囲まれ引っ張りだこ!　⓭翌日のレースにエリートで出場した竹内鉄平選手（左端）も復興祭の会場に。チームメイトとインドカレー屋の店員さんと、笑顔で1枚

©Satoshi Takasaki/JTU

同日開催されたジャパンカップの男子のエリートレースは、後続が集団で断トツトップの田山選手を追いかける。ラン、バイクともに激戦

Team-LUMINA 七ヶ浜プロジェクト

この場所からもう一度

第18回みやぎ国際トライアスロン仙台ベイ七ヶ浜大会

1年半振りに帰ってきた七ヶ浜大会。
誰もが大会の復活を喜び、復興への兆しを感じた。

参加者名簿を見ながら名前を読み上げ応援する人や、自宅の軒先から笑顔で応援する地元住民の皆さんを見たら、辛くても頑張れる

約1年半振りの復活 七ヶ浜大会が開催

前日は復興祭を開催、翌日の大会もボランティア参加したチーム・ルミナ。続いて大会レポートをお届けする。

「みやぎ国際トライアスロン仙台ベイ七ヶ浜大会」が7月1日（日）に復活を遂げた。昨年行われる予定だった第17回大会は震災の影響で中止となった。数カ月前までスイム会場の湊浜にはコンテナが打ち上げられ、大会開催にはまだ時間がかかるとされていたが、大会事務局を新たに立ち上げ、レースの復活が町に活気を取り戻すきっかけになるという思いで準備を進めてきた。スイム会場は以前と同じ湊浜の外洋を泳ぐコースだが、バイク・ランコースは一部変更となった。

今大会は前回と比べて県外からの参加者が多かったのも特徴のひとつだ。復興を応援したいという気持ちで参加したトライアスリートたち。なかでも地元・多賀城高校陸上部とトライアスリートたちが一緒になって参加したチーム「KIBOW」は、10チームでリレーに参加。スイム、バイクを終えたトライアスリートたちは学生たちにランを託し、彼らのゴールを温かく迎えていた。仙台市出身の小林さんご一家は家族全員で前日の復興祭から参加し、レースには夫婦ふたりで出場していた。無事完走した妻の美和子さんは、「夫の影響でトライアスロンを始めて、今回の七ヶ浜大会には初めて参加しました。特にランのアップダウンが辛かったですけど、沿道の温かい応援があったので最後まで走れました」と、にこやかに話してくれた。

この日はロンドンオリンピック日本

©Satoshi Takasaki/JTU

スイムは前回と同じ湊浜で行われた。海は穏やかに見えたがブイの先は波のうねりが激しく、スイムが得意な選手も苦戦したそうだ

©Satoshi Takasaki/JTU

ランは住宅地の中を走るアップダウンの激しい周回コース。フィニッシュ付近の上り坂では沿道の声援を受け、選手たちにも笑みがこぼれる

（左）スイムからランへ続くトランジションエリアで勢いよくバイクパートに駆け出す選手たちの後ろには、瓦礫の山がそびえる（右）親子でトライアスロンライフを送っている小林さんー家。復興祭のキッズアクアスロンでは、息子の武蔵君が3-4年男子の部で優勝!（下）復興祭に続きレース当日もコースの監察ボランティアに参加。選手たちが安全にレースを行えるよう危険ポイントに立ちサポートしたトライアスリートの皆さん

©Satoshi Takasaki/JTU

最後まで笑顔を絶やさずフィニッシュした田山寛豪選手。彼の走りは皆に元気を与えてくれた。ロンドンでの走りに期待が高まる

（上）小雨が降ったり止んだりするなかでのバイクパートは、沿道ボランティアの行き届いたサポートで、目立った事故も起こらなかった（右下）トライアスリートたちとチームを組みリレーに参加した多賀城高校陸上部。沿道で声を張り上げる後輩の声援を受けながら走り抜いた（左下）本誌6月号に登場した山田学さんもこの日のレースに参加。自身の病気と闘いながら走り続ける山田さんの姿には、勇気づけられる

©Satoshi Takasaki/JTU

RESULT（エリート・スプリント）

MEN

1　田山寛豪（NTT東日本-NTT西日本／流通経済大学職員）
57:42（S09:48/B 30:26/R17:28）
2　谷口白羽（三好スイミングアカデミー）
59:08（S10:13/B30:37/R18:18）
3　井上一輝（東京都連合）
59:26（S10:35/B30:20/R18:31）

WOMEN

1　菊池日出子（宇都宮村上塾）
1:05:10（S11:14/B33:33/R20:23）
2　伊藤弥生（福岡県連合）
1:06:59（S11:37/B34:34/R20:48）
3　阿間見 眸（三好スイミングアカデミー）
1:07:15（S11:29/B34:44/R21:02）

RACE DATE

第18回みやぎ国際トライアスロン仙台ベイ七ヶ浜大会
7月1日　宮城県七ヶ浜町湊浜海岸公園周辺
天候／小雨
気温／18.5℃
水温／21℃
距離／オリンピック：1500m B40km R10km
スプリント：S750m B20km R5km
参加者数（完走）／361人（337人）リレー22組（21組）

代表の田山寛豪選手、細田雄一選手、上田藍選手もエリートの部で出場。沿道の観客にハイタッチで応え、辛い顔は決して見せずに終始笑顔で走り抜けた。「苦しい中で震災を乗り越えた人たちが頑張れって応援してくれているから、僕はもっと頑張らなくちゃいけないと思いました。七ヶ浜の海で自分の身体を清めて、全力でいきました。笑顔で応援を受けることが今日一番のテーマでした」

今回参加した一人ひとりが七ヶ浜大会の復活を喜んだ。この場所で再びレースができるようになったことは、復興への大きな一歩となったはずだ。

海と向き合い前向きに進んでいく

「七ヶ浜プロジェクト」連載1回目（11年7月号）に登場した七ヶ浜町震災復興推進室の荻野繁樹さんは、この日スイムサポーターとしてシーカヤックで大会に参加していた。荻野さんは過去の大会でもサポート役で参加していたが、震災以降は一度も海に入っていなかった。「（震災後初めての海に）恐怖心はなかったですね。海に入るのをためらう人も少なくないですが、復興に向けて、私たちは海と向き合わなくてはいけません。はじめはコースが復旧してからの開催も考えていましたが、別のコースを使うことで、開催を前向きに考えて取り組みました。震災前のレースは年々盛り上がりに欠けていたので、今回の大会復活をきっかけに、今後も町に元気を取り戻す努力をしていきたいですね」と語ってくれた。荻野さんはこの2日間を振り返り、「七ヶ浜に復興の兆しを感じました」と、力強く答えてくれた。

Team-LUMINA

七ヶ浜プロジェクト

トライアスリートとして 今、できることからはじめてみよう。

チーム・ルミナでは、昨年5月から宮城県七ヶ浜町のボランティア活動に取り組んできた。今年7月には1年振りに「七ヶ浜トライアスロン大会」が復活し、その前日にはルミナ主催で「復興祭（9月号P88〜89参照）」を行った。今後も七ヶ浜町の様子をお伝えするとともに、復興のお手伝いを続けていく。

景品のおもちゃを受け取る子どもたち。七ヶ浜町で行われた夏祭りには、ボランティアの皆さんも多く参加し、一緒に楽しんだ

右上：ボランティアセンターへ見学に来た自治会の皆さんで菖蒲田浜のゴミ拾いを行った。こうしたボランティア活動は今もなお続いている／左上：「諏訪神社例大祭」で神輿を担ぐボランティアの皆さん。流された装束の代わりに、白いTシャツを着て町内を練り歩いた／右下:NZのキー首相（左から2番目）が七ヶ浜町に来町。渡邊善夫七ヶ浜町長（左から3番目）から被害状況の説明を受けた／左下：キー首相の来町時、国際村ホールではニュージーランドの先住民族、マオリ族による歌と踊りのパフォーマンスも行われた

少しずつ賑わいを取り戻していく七ヶ浜町

7月1日の「トライアスロン七ヶ浜大会」から約2カ月が過ぎた七ヶ浜町の様子を、七ヶ浜町災害対策本部総務部の荻野繁樹さんに訊いた。

「今年は30度越えの猛暑が続いたせいか、海に入る人が増えましたね。震災以降、海に入らない人も多かったのですが、サーファーを中心に海に人が戻ってきています」。ボランティア活動については、「現在もボランティアの受け入れを続けていて、週末は瓦礫の処理などをしてくれています。七ヶ浜町に人々が集まって、少しずつ賑わいを取り戻していることを実感し、うれしいですね」と話してくれた。（荻野さん以下同）

さらに、9月10日（月）にはニュージーランドのジョン・キー首相が七ヶ浜町を訪れ、被災地視察のほか、マオリ族による歌と踊りなどが披露された。ニュージーランドで昨年2月22日にクライストチャーチ地震が起きた際、七ヶ浜町は義援金を送ることを決めた。職員が義援金の振り込み手続きをしていたのが3月11日だったそうだ。「震災後に駐日大使が国際村へ炊き出しをしに来てくれました。とても感謝していますし、深いご縁を感じますね」。

ボランティア受け入れは10月以降も継続

七ヶ浜町復興支援ボランティアセンターの活動は9月で打ち止めの予定だったが、10月以降も活動を続けることが決まった。今後は被災者の心のケア、交流イベントなどを行っていく。

今夏、七ヶ浜町では地区ごとに夏祭りが行われた。9月9日（日）に震災での被害が大きかった菖蒲田浜地区では「諏訪神社例大祭」が2年振りに復活した。鳥居は損壊し、装束や道具も流されてしまったが、神輿は奇跡的に被害を逃れていた。全国から担ぎ手のボラが40人集まり、地元住民たちと力お祭りを盛り上げた。

ボランティアセンター事務局の星さんは、「地元住民の皆さんとの交流を通じて目に見えないものを一つひとつ積み上げていきたいですね」と語ってくれた。地元イベントに参加することも立派なボランティア活動になる。皆で七ヶ浜町をもっと元気にしていこう。

「七ヶ浜町復興サポーター」に登録しよう

現在、七ヶ浜町を支える応援サポーターを募集中。登録方法は簡単で、専用アドレスに空メールを送るだけ。月2回のメルマガ配信ではボランティア募集の情報のほか、今後は七ヶ浜町との交流企画への参加情報、七ヶ浜町の特産品をサポーター価格で購入できる特典などを展開していくそうだ。特設ブログでは、七ヶ浜町の近況やボランティア活動をチェックできる。七ヶ浜町を支えるサポーターのひとりになって、一緒に応援しよう。

★応援サポーター登録用アドレス（空メールを送信）
mailto@rsy-nagoya.com

【七ヶ浜応援サポーターブログ】
http://ameblo.jp/7supporter/

【浜を元気に！七ヶ浜町復興支援ボランティアセンター】
http://msv3151.c-bosai.jp/group.php?gid=11044